

健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成30年9月発行

第194号

大腸がんが増えています！

医療法人社団 山口医院

院長 山口 孝太郎 先生

近年日本は男女とも世界トップクラスの長寿国になったのですが、その日本人の死亡原因として、昭和56年以来ずっと「悪性新生物」つまり「がん」が第一位を続けています。治療法が進歩してきた最近でも、死亡数の増えている癌がいくつかありますが、その代表的なものの一つが大腸がんです。

国立がんセンターの2016年の統計では、癌死亡の多い順は男性では1位が肺、2位胃、3位が大腸でした。女性では1位が大腸、2位肺、3位が膵臓でした。男女合わせると1位が肺、2位が大腸、3位が胃でした。このうち胃がんの死亡は横ばいですが、肺と大腸は増加しているのです。肺がんは喫煙がその大きな原因と言われており、禁煙運動が肺癌増加への対策として進められています。大腸がんについては、食生活の欧米化がその原因の一つと言われていますが、今から食生活を昔の状態に戻すというのは現実的ではないですね。そうすると、何とか早期発見をして大腸がん死亡を減らすというのが目下の課題となります。

大腸は肛門に近い直腸と、それより奥の結腸に分けられます。直腸やそれに近い部位にできた癌は、出血すると便に赤い血が混じることがあります。もっと癌が大きくなると、直腸近くの便は固くなっていることが多いですから、ひっかかって腹痛の原因になります。自分の便は普段人に見てもらわねにいきませんから、自分で便の状態を観察することが大切です。また腹痛が続くようでしたら、一度主治医に相談することをお勧めします。これに対して直腸から遠く離れた奥の結腸にできた癌は、出血しても便と混じって目で見た異常がわからないことが多いのです。またこうした部位では便が固まっていないことが多いので、癌が進行しても通過障害を起こしづらく、痛みが出にくいことがあります。このような部位の癌は、自分でいくら気を付けていても早期の発見は難しいのです。



大腸がんの早期発見のために、検便で血液の有無を調べる大腸がん検診が有効とされています。大腸がん検診では、2回の便を採取して検査を行い、1回でも血液反応が陽性の場合は大腸カメラや腸のレントゲン検査（注腸）などが必要となります。ただし、これらの検査で癌があると言われる確率はあまり高くはありません。ほとんどの方が大丈夫と言われるので、怖がらずに検査を受けてもらいたいと思います。